

ゾウのチェーン繫留（鎖に繋がれたゾウ） 【Elephants in Chains】

http://www.upali.ch/chains_en.html

ゾウを鎖で繫ぐこと（以下、繫留と略す）は問題か？

ゾウたちが、ロープやチェーンに繋がれて、動きを抑制（制御）されているという事実は、ゾウの飼育係たちと動物園やサーカスの観客の間で、今まで、たくさんの議論がされてきたトピック（話題）である。

多くの動物園の観客たちは、「なぜ、ゾウが繫留によって制御されなければならないか？」について全く理解できない。そして、ゾウ舎の寝室の中でチェーン繫留されているゾウの光景は、観客たちを不安にさせる。

ゾウたちが繫留されているという論争（問題）は、異なる動物園とサーカスで飼育されているゾウたちが、全て同じ方法で繫留されていることと密接に結びついている。

「ゾウたちを繫留すべきではない」という理由は、非常に多い。けれども、また、繫留を支持する正当な（素晴らしい）理由がいくつかある。



どうして、繫留に、チェーンが伝統的に使われているか？

動物園とサーカスのゾウたちのチェーンによる繫留は、長い歴史がある。ごく最近まで、ゾウたちを繫留しないままで飼育することは、想像できないことだった（とんでもないことだった）。多くのゾウ専門家たちは、ゾウ舎の寝室内でゾウを繫留しない場合には、ゾウが野生化するかもしれず、そして、人間とゾウの両方に危険であろうと考えていた。

ほとんどの動物園では、天候次第で、放飼場と寝室のいずれにおいても、ゾウを繋留することが慣例であった。

また、より進歩的な気持ち（態度）を持つ人々はあるか？

現在では、ゾウの多くの飼育係は、ゾウの取り扱いについて、より進歩的な道（アプローチ）を好んで（選んで）いるので、短時間だけゾウを繋留している。

一方では、依然として、多くの動物園やサーカスのゾウの飼育係たちは、何時間もゾウを繋留したままにしておくことを何とも思っていない（一部のケースでは、何日も続けて）。

多くのゾウ舎では、どうして、チェーンが必要か？

多くの場合、ゾウ舎の構造的な問題によって、ゾウの飼育係はゾウを繋留せざるをえない。

場所（空間あるいは面積）の不足、寝室や放飼場を分離するモート（堀）の不足は、飼育係に他のいかなる選択の余地を残さない（ゾウと人間の安全のために、繋留せざるをえない）。ゾウの群れの中における順位の争いと、食べ物に関する恨み（ねたみ）は、ゾウたちの闘争と事故の原因になりえる。攻撃しそうなゾウ（敵）を繋留することは、そのような喧嘩（紛争）を避ける手段である。

ゾウ舎寝室が狭いだけでなく、放飼場も狭い場合には、たまに、ゾウの不器用な単純な行動で、放飼場周囲の深いモートにゾウが転落する可能性がある。モートにゾウが転落することは、そのゾウにとって、深刻な結果（重傷や死亡）をもたらすかもしれない。このような事故のかわいそうな例が、A. Hauffelner が書いた「Elefanten in Zoo und Zirkus（動物園とサーカスのゾウ）」という本に載っている。



最新のゾウ舎寝室は、どのように建築されるべきか？

現代では、ゾウ舎寝室は、急勾配のモートなしで、可能な場合は必ず、より広大に（広々と）建築されている（翻訳者の翻訳経験によれば、欧米のゾウ舎寝室は、室内展示でき

るように寝室と観客通路の間に深い堀がある)。

急勾配の堀の代わりに、ゾウが降りてみたいという興味を持たないような、よりゆるやかなスロープのモートを掘る。このゆるやかな斜面のモートには、グルグル回るように丸太を置いたり、砂利を敷いたりすることにより、ゾウはモートに降りようとしな



このモートでゾウの転落事故が起こった場合には、もはや、ゾウにとって深刻な障害を及ぼさない。

また、一時的な解決策があるか？

古いゾウ舎寝室は、チューリッヒ動物園のように、ゾウのモートへの転落を防ぐために格子の柵（バリア）を用いている。チューリッヒ動物園のこの柵は、電気モーターによって垂直に移動する。

夜間、このバリアを上を引き上げる。そして、昼間は、観客のゾウの眺めを邪魔しないように、観客が見えない場所に移動する。このシステムが有効であるためには、ゾウの群れに仲の良い関係が必要であるけれども、このシステムは、成功したと解った。



そして、サーカスでの一時的な解決策は？

一般的に、サーカスは、ゾウたちが自由に動き回ることができるゾウ用の室外放飼場すらも有していない。サーカスのゾウたちは、訓練で忙しくなかったり、サーカスの舞台上で公演することがない時は、サーカスのテントの中、あるいは冬期用営舎で繋留され続けていた。この（繋留が続く）状態は、多くの動物園とサーカスにおいて改善されてきた。現在では、多くのゾウが、周囲を電気柵で囲った室外放飼場に居る。

サーカスには、どんな選択肢（オプション）があるか？

高圧電流が流れる柵（電気柵）を使うコンセプト（発想）は、サーカスで、ますます普通にみられるようになってきている。まさに、牛の放牧地の周囲に張りめぐらした電気柵のように、ゾウのための電気柵は、有効なバリアとしての機能を果たしている。ゾウ用の電気柵の架設は、牛用のものと比べて、強度の必要はないし、強力な電流を流す必要もな

い（牛用と同様の電気柵でよい）。

そういうわけで、サーカスが巡業場所を変える時はいつでも、ゾウたちは、「新しい」屋外放飼場で楽しむことができる。

電気柵を使う場合には、ゾウたちが、電気ショックを怖がらないように自由に活動できるほど充分広い土地面積が必要である（重要である）。



なぜ、ゾウたちは、依然として短い一定の間、繋留されなければならないか？

日中と夜間の間、ゾウたちを自由に動けるようにさせられる技術的な見込みがあるにも関わらず、今でも、ゾウたちを短時間の間、繋留により拘束しなければならない幾つかの正当な（素晴らしい）理由がある。ゾウたちのための日々の予防衛生、訓練と獣医学的処置は、普通は、今まで通りゾウたちを繋留して実施する。

ゾウの体の洗浄や訓練の目的のためにゾウを繋留により拘束することは、ゾウが静止して、ゾウの調教師に集中することを、ゾウに強制する。そういうわけで、ゾウの足のチェーンは、元気のよい子供たちで一杯の教室において、（子供たちが、おとなしく座っているための）ベンチや椅子と同じ目的を有している。

獣医学的処置の間は、足のチェーンは、主に安全装置の役目を果たす。獣医師が病気のゾウを診察して、治療することができるために、ゾウ舎の中のゾウたちを、安全にチェーン繋留しなければならない。獣医師は、ゾウの飼育係ではないので、ゾウたちの間で自由に動き回ることができない。獣医師が邪魔されることなく仕事ができるために、他のゾウたちも同様に、しっかりチェーン繋留する必要がある。